

扱うテーマ： 日本における幼児教育

（↑当初、イタリアのレッジョ・エミリア市における幼児教育に焦点をあてていましたが、客観的なデータや先行研究、政策評価等が見つからなかったため、示唆部で扱えたらと考えています。レッジョ・エミリア市における幼児教育の概要は後ほど記述します。）

◆テーマを選ぶにいたった経緯

班員が皆、子どもに興味があったから。レッジョ・エミリア市のそれと比較してみたかったから。

◆日本における 幼児教育¹ の現状（マクロな視点から）

・ 幼稚園 ⇄ 保育園

—日本初の正規幼稚園は、1876年創設の東京女子師範学校附属幼稚園であり、唱歌や恩物教育等、富裕層への早期教育的意味合いが強いものとしてスタート。
—一方、保育所は、託児所的なもの（救貧対策として貧児を対象としていた）が始まり。

↓

・ 幼稚園＝学校教育体系の一つ & その後の教育や人格形成のために重要

—幼稚園教育は「義務教育及びその後の教育の基礎を培う上で重要な役割を担っている²」とされる等、その意義は、幼稚園教育要領、中央教育審議会答申等、至るところで指摘されている。

↓

・ 幼稚園には、幼稚園教育要領があり、ねらい・指導すべき内容等が定められている

—現幼稚園教育要領では、幼稚園修了までに育つことが期待されるねらいが定められており、その達成のために指導すべき内容等も5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）にわたって明確に示されている。

↓

・ 各幼稚園は、幼稚園教育要領に従い、教育課程（指導計画）を編成することが求められている

各幼稚園は、教育基本法や学校教育法といった「法令やこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成する³」ことが求められている。また、その際、特に、「幼児期にふさわしい生活」や「遊びを通しての指導」「発達の課題に即した指導」等をふまえることとされている。

¹ 教育的側面に着目した為、本論においては、その対象は幼稚園のみとし、福祉的性格の強い保育園については扱わないこととする。

² 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（平成20年1月17日）」

³ 「幼稚園教育要領」第一章総則。

- But** 実際には、幼稚園教育には統一されたカリキュラムがないので、幼稚園ごとに内容はバラバラ！
- 国公立や私立といった設置形態や、教員によっても、その差があったり…
 - さらには、教育課程や指導計画を編成しない園すらあったり…
 - 編成した教育課程の内容がゆるく曖昧で充実していなかったり…

◆問題意識

つまり、学校教育体系の一つとして、幼稚園教育要領等においてマクロレベルで定められた理念があるにも関わらず、幼児教育には「各園での教育課程編成が不十分（要検討）」といったミクロレベルでの問題があると言える！

⇒では、こうした現状は、なんらかの practical problem の一因となっているのではないか…？

仮説1

小1プロブレムが起こる一因は、教育課程編成が現場レベルで不十分なことである。

仮説2

日本の子どもが意見表明を苦手とする一因は、教育課程編成が現場レベルで不十分なことである。

◇仮説1について

- 小1プロブレムとは：例）授業に集中できない、集団行動が苦手、勉強に興味をもてない等。
- 上記の問題の理由としては、先行研究等では以下が多く言われている
 - ① 幼小連携がうまくいっていないから（教員同士の連携や、幼児と小学生の連携等）
 - ② 家庭教育がうまくいっていないから（親が過保護、無関心、核家族化による子育ての不慣れ等）
 - ③ システムレベルのものがうまくいっていないから（幼稚園教育要領の内容が不十分等） など

◇仮説2について

- 意見表明苦手とは：例）対立する意見のときに発言しない、主張を自らしめない等
- 上記の問題の理由としては、先行研究等では以下が多く言われている
 - ① 小学校以降の段階での教育に問題があるから
 - ② 国民性として争いを避けたがるから など

◆今後の予定

- 上記の2つの仮説についてそれぞれ概要や先行研究動向、データ等を把握し、検討する。
- 各園での教育課程編成の状況についてのより詳しいデータ等を収集する。
- 示唆として考えているレッジョ・エミリアについても、引き続き実証データ等ないか調べていく。
- 言葉の定義等も行いながら、よりわかりやすい論展開へと修正する。

◆レッジョ・エミリア市の幼児教育について

※現在世界的に注目されている

1991年ニューズウィーク誌に「最も革新的な幼児教育」として紹介された。

「子どもたちの100の言葉」と題した作品展が東京をはじめ世界各地で催された。

- ・ 場所：イタリア共和国 エミリア＝ロマーニャ州
- ・ 開始：戦後間もない時期に、地域の共同保育運動として始まった。
- ・ 中心人物：ローリス・マラグッツィ
(デューイ／ヴィゴツキー／ピアジェなどの理論を発展させ、保育の基礎を作った。)
- ・ 概要：子どもと大人の双方が創造性を発揮し、美的で探求的な活動を通して共に学び、育ちあう関わりを形成する教育
- ・ 特色：一定の教具やカリキュラムにそって決まった通りのことを教えるのではなく、子どもと保育者がじっくりとコミュニケーションを取り合いながら、ユニークなカリキュラムを協同で作りに出していく。
- ・ 特徴：
 - ・ アトリエスタ（芸術専門家）とペダゴジスタ（教育専門家）の存在
 - ・ 創造性の教育（美育／美的感受性を大事にする保育）
 - ・ 記録文書（ドキュメンテーション）・・・多くの媒体による学びの記録
 - ・ プロジェクト学習・・・2～5人がグループで学習※ 教師はねらいを定式化しない⇒エマージェント・カリキュラム
 - ・ 親：個々の学校を運営する諮問委員会の一部（様々な形で参加が期待される）
 - ・ 共同性の役割：地域と共に学ぶという思想が強い

⇒レッジョ・エミリアの教育の特徴から、日本の教育における**集団行動**や**意思表示**に関する有益なヒントが得られるのではないかと

○集団行動に関して

レッジョの教育では、グループの中に存在することが強調され、共同性と相互依存を解する心に価値が置かれている。

⇒地域が一体となって教育環境を作っている点に注目！

○意思表示に関して

子どもたちは話すことにより知識を説明するが、別の様々な方法も用いる。例えば、模型、グラフィック、ワイヤー、ダンス等を用いて自分たちのアイディアを説明する。

⇒様々な意思表示の方法を実践し、重視している点に注目！